

第一下府川橋梁と4連アーチ橋 新線旧線の橋梁が同時に見られる全国でも珍しいスポット。新線の第一下府川橋梁（写真左側）は、奥の下屋トンネルへとつながっています。

今福線の沿革史

出典：鉄道未成線を歩く(国鉄編)/森口 誠之 著

- 【旧線】
 - 1892(明治25年) 鉄道敷設法公布
 - 1896(明治29年) 島根側から「芸石鉄道」、広島側から「広浜鉄道」開通
団体が広島～浜田間の鉄道敷設免許を申請
 - 1921(大正10年) 広浜鉄道期成同盟会結成
 - 1922(大正11年) 改正鉄道敷設法公布
広島～浜田間の鉄道が予定線に組み入れられる
 - 1926(昭和1年) 広島電気が可部軌道を買収
 - 1931(昭和6年) 広島電気が横川～可部間を広浜鉄道に譲渡
 - 1933(昭和8年) 浜田～石見今福間着工認可、下府～石見今福間着工認可
可部線の可部～加計間着工認可
 - 1936(昭和11年) 鉄道省が広浜鉄道を買収し国有化
可部線横川～安芸飯室間が開通
 - 1937(昭和12年) 日中戦争始まる
 - 1940(昭和15年) 今福線、可部線工事中止
- 【新線】
 - 1948(昭和23年) 広浜鉄道促成浜田同盟会結成
 - 1954(昭和29年) 可部線が加計まで延長
 - 1964(昭和39年) 日本鉄道建設公団設立
 - 1968(昭和43年) 今福線着工認可(下府～石見今福間)
 - 1969(昭和44年) 新計画今福線着工認可(浜田～石見今福間に路線変更)
可部線加計～三段峡が開通
 - 1970(昭和45年) 浜田～石見今福間着工
 - 1972(昭和47年) 今福線全線着工認可(石見今福～三段峡間)
 - 1976(昭和51年) 旭町で今福線工事開始
 - 1980(昭和55年) 日本国有鉄道経営再建促進特別措置法制定
今福線工事中止



今福線浜田・石見今福間線路平面図(新線)
新線建設時の浜田・石見今福間の起点周辺図面。左上には「石見今福起点」の文字も。石見今福駅予定地は、現在はJAしまね金城支店や今福公民館となっている。

今福線沿線の観光スポット



国民宿舎 千畳苑

白く輝く砂浜が1kmほど続く国府海岸に面しており、絶景が楽しめます。最上階の展望風呂からは日本海に沈む夕日や夜を彩る漁火は絶景です。

島根県浜田市下府町2164
☎0855-28-1255
定休/年中無休



リフレパークきんたの里(湯屋温泉)

金城町のミネラルウォーター「金城の華」の源泉と同じ良質泉です。金城町の特産品、工芸品なども種類豊富に販売しています。

島根県浜田市金城町七条1980-1
☎0855-42-3555
営業/10:00～22:00
定休/第3水曜日



かなぎウエスタンライディングパーク

初心者から上級者まで安心して楽しめる乗馬牧場。近隣の堂床山山頂からの眺めは360度のパノラマです。

島根県浜田市金城町久佐11390-8
☎0855-42-2222
営業/10:00～21:00
定休/月曜日、第2・3火曜日
(祝日の場合は営業、翌日休み)



美又温泉

約150年の歴史を持つ特徴のある名湯で、美人湯としても有名です。スベスベした肌触りで、肌によくなじみます。無料で楽しめる足湯もあります。

島根県浜田市金城町追原
☎0855-24-1085(浜田市観光協会)



旭温泉

さらさら感と、ほどよい温かさが特徴の温泉。「旭温泉せつけん」は、旭温泉の源泉を配合して作られており、お土産に最適です。

島根県浜田市旭町丸原1529-11
☎0855-45-8039
営業/7:00～21:00
定休/年中無休



地域交流プラザまんでん

地元旭町の採りたて野菜や果物を求めて、高速道路を使って来店するお客様も多い人気店で、生産者が手掛けた加工品も評判です。



浜田市へのアクセス



自動車(主要道路距離表) ●広島ICから ●浜田 約1時間30分

高速バス ●広島駅から ●浜田 約2時間

J R ●松江駅から特急で ●浜田 約1時間30分

飛行機 ●東京(羽田)から 萩・石見空港 1時間45分 — 萩・石見空港から車で ●浜田 約50分

発行元：浜田市

協力：今福線を活かす連絡協議会
写真提供：前畑洋平・温子(J-heritage)

●お問い合わせ 浜田市観光交流課
〒697-8501 島根県浜田市殿町1

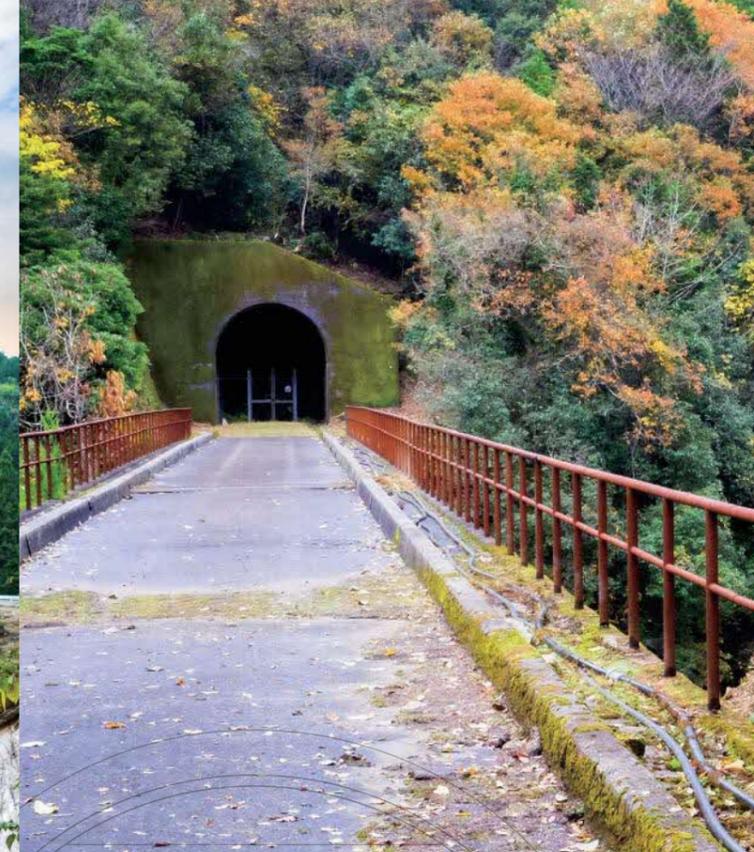
☎0855-25-9531

●発行/令和3年3月



幻の、
鉄道遺産へ
出発進行。

広浜鉄道今福線ガイド



幻の鉄道遺産から地域のシンボルへ

今福線は、広島と浜田を結ぶ広浜鉄道の島根県側のルートとして昭和8年、旧国鉄山陰線の下府駅から石見今福駅までが着工されました。しかし、工事がほぼ完成した昭和15年、戦争のため中止されてしまいました。

戦後、今福線旧線とは別に浜田駅を起点とする今福線新線として工事が再開されましたが、昭和55年、国鉄の慢性的赤字経営の影響により、再び工事が中止されました。以後、工事を引き継ぐ事業者も現れず未成線として終わり、「幻の広浜鉄道」と呼ばれるようになりました。

陰陽連絡鉄道の開通にける先人の努力と希望は、二度にわたる工事凍結により挫折と落胆に変わり、今福線はいつしか負の遺産として記憶されるようになりました。

その後、数十年の時を経て転機が訪れます。平成10年に発行された「鉄道廃線跡を歩くV」で今福線が紹介され、その存在に再び光が当たります。平成20年には公益社団法人土木学会から「今福線コンクリートアーチ橋群」として選奨土木遺産に認定され、その歴史的土木的価値が認められました。

今福線は、下府駅から石見今福駅の間と旭町丸原地内に路盤、橋梁、橋脚、トンネル等の遺構が現在も当時の姿をとどめています。この鉄道遺産を価値ある資源として観光交流や地域活性化に活かすべく、沿線地域では様々な活動が行われています。一度は忘れかけられた負の遺産が今に復活し、地域のシンボルとして再び地域をつなぎ、新たな歴史を刻もうとしています。

今福線の今昔フォトグラフ



今福第五トンネル付近 (昭和14年頃)
今福第五トンネルを抜け下府川を渡る工事現場。まっすぐ佐野地区へ向かう路盤上にはトロッキのレールが見えます。



今福第五トンネル付近 (現在)
手前の橋脚は失われており、今は水面付近に土台跡と鉄筋がわずかに残っています。路盤跡は木々に覆われています。



おろち泣き橋 (昭和13年頃)
下府川沿いに建設中の4連アーチ橋。当時は杉の丸太を使って足場を組んでいた様子がわかります。



おろち泣き橋 (現在)
現在は市道に転用されており、橋の両側に落下防止のための手すりが施されています。田園風景は今も変わりません。

今福線沿線マップ



今福線いち押しビューポイント



1 JR下府駅「幻の3番線」
左側2番のりばのさらに右側(幻の3番線)に今福線旧線が入り、右の小山に向けて橋台や路盤が建設されました。現在、3番線は空地となっています。



2 有福第三トンネルと橋脚
県道の桜並木を過ぎると突然遺構が現れます。対岸のトンネル坑口と橋脚のつながりに未成線の無念さを感じさせます。見学の際は車両の通行にご注意ください。



3 橋脚群
旧線では最長の橋梁です。円形の橋脚は川の流水の影響を小さくするためのものです。全国的には舟形や小判型が多く、貴重な存在です。県道を挟んだ山側には橋台と今福線第一トンネルがあり、小山に登ると橋脚群が右にカーブしている様子がわかります。



4 5連アーチ橋
現在、県道として使用されています。県道下に降りて眺めると、山側の擁壁と旧線が県道の各片側1車線ずつを構成する面白い構造であることがわかります。新緑や紅葉の時期には美しい景観に溶け込み、悲運の歴史を今に伝えています。橋の奥に今福第四トンネル、1連アーチ橋があります。



7 おろち泣き橋
この橋の下の1点に立つと、目の前の橋から音が大きく聞こえるスポットがあります。4連アーチ橋をおろち(大蛇)の胴体に例え、今福線が開通しないことが決まった日から、おろちがひそかに泣き続けていると地元の人は言います。

今福線沿線の見どころ



A [国府地区] 石見国分寺跡
現在の浄土真宗金蔵寺境内にあり、塔跡と礎石が一部残っているのみで、全体像は明らかになっていません。発掘された瓦・土器などから、国府地区が古代石見国の中心であったことを示しています。



B [国府地区] 下府廃寺塔跡
7世紀末～8世紀初頭頃に建立され、10世紀初めまでには廃絶した寺院と考えられています。一町四方の寺域が想定できる規模は、石見の中核的な寺院であったことを伺わせます。



C [宇野地区] 松葉菊の景観
地元グループ「宇野松寿会」が手入れをされている松葉菊は、地域の名所となっています。見頃の7月には下府川両岸約700mが紅のじゅうたんとなります。



D [宇津井地区] 千谷の棚田
旧線の橋脚群に隣接する棚田の風景は、汽車の車窓から眺めるとさぞ美しかっただろうと、想像力をかきたててくれます。現在はつつじが植栽されています。



E [佐野地区] 丹後坂の石畳
江戸時代、浜田藩主の一行が参勤交代の時に、この丹後坂を通り広島へ向かいました。雨水で路面が崩れないよう、坂に石を敷き詰め流失を防いだのは当時の人の知恵でしょう。



F [雲城地区] ハッチョウトンボ生息地
日本一小さなトンボで絶滅危惧種のハッチョウトンボが生息し、県下でも最高ランクの群生と評価されています。見ごろは5月下旬から8月上旬で、地元で生息地の管理やイベントを実施されています。

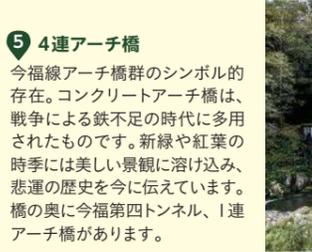


G [今福地区] 山藤の松
この松はかつて、一里塚の役を果たしていました。参勤交代などで多くの旅人の道標となり、旅人を目的地へと導いてきました。樹齢は300年と400年とも言われています。



H [丸原地区] 丸原薬師堂
今福の安楽寺の末裔で東方庵ともいい、本尊は薬師如来。かつては、近郊から多くの参詣者がありました。近隣に覚善寺や丸原天満宮などがあります。

今福線ウォーキングマップ



5 4連アーチ橋
今福線アーチ橋群のシンボリック存在。コンクリートアーチ橋は、戦争による鉄不足の時代に多用されたものです。新緑や紅葉の時期には美しい景観に溶け込み、悲運の歴史を今に伝えています。橋の奥に今福第四トンネル、1連アーチ橋があります。



9 第一下府川橋梁・4連アーチ橋
新線は、下府駅を起点とする旧線の路盤を利用せず、浜田駅から直線的な線形をとりました。新旧未成線の橋梁が同時に見られる遺構は、全国的にもたいへん珍しい存在です。



10 下長屋トンネル(金城側)
新線の第一下府川橋梁からつながる、全長1633mもある長いトンネルです。不思議なことに、入口と出口でトンネルの形状が異なります。金城側からは坑口を見学できますが、トンネル内には入れません。